

ベトナム社会主義共和国ホンバン国際大学との大学間締結による海外派遣授業の展開その2

松井由美子、塚本康子、小山歌子、西川薫
新潟医療福祉大学 看護学科

【背景・目的】本学では豊かな感性と広い視野を身に着けるため積極的に国際交流を進めている。看護学科では3つの海外研修プログラムを有し、ベトナムのホーチミン市にあるホンバン国際大学との交流はその一つである。協定内容として「両大学間の単位の互換性の検討」、「継続的な看護技術の提供」、「学生と教員の相互交流」、「共同研究の実施」、「双方のデータの共有」が盛り込まれ、本研究では第2回目の継続的な看護技術の提供のための派遣授業の実施についてその経過と振り返りを行ったので報告する。

【方法】今回の派遣授業は地域看護学、精神看護学と連携教育について、授業を行った。今回の科目はベトナムにおける看護教育ではシラバスにはなくまだ未発展の領域である。

昨年同様にホンバン国際大学のニーズや意見を反映した内容とし、先方の大学と調整を行い、海外研修を実施した。資料に関してはベトナム語への翻訳を依頼し、講義・演習に関してはホンバン国際大学の日本語学科教員の通訳を依頼し、協力のもと「海外出張講義・演習科目」をホンバン国際大学看護学科の学生及び教員スタッフ対象に実践する。対象学年については可能な学年を設定した。

【結果】実施日：2017年3月2日（木）10:00～
場所：ホンバン国際大学 看護学科講堂
講義対象者：ホンバン高裁大学看護学生1～4年 100名
講義テーマ：

1. 地域・在宅看護学：（講演者：小山）
日本の高齢社会の現状と地域包括ケア
2. 精神看護学（講演者：西川）
日本の精神医療の現状と看護
3. 連携教育（講演者：松井）
新潟医療福祉大学多職種連携教育 IPE

<講演写真>



1. 看護学科長より講師紹介 2. 精神看護学の講義
ホンバン国際大学、看護学部長の Thuan 先生より講師紹介をいただき、1から3の順に講演を行った。

ホンバン国際大学日本語学科の Hai 先生よりベトナム語へ同時通訳をいただいた。3人の講演終了後は学生・教員からたくさんの質問がありそれぞれの講師が回答した。質問内容は高齢者の問題や精神医療、連携教育に関するものであった。



3. 通訳の Hai 先生（右）



4. 質問する HBUI の学生



5. 招待講演の横断幕



6. 看護学科スタッフと

【考察】今回の講演内容は、すべてベトナムではまだ未知の領域に近い内容であった。しかし、昨年10月にホンバン国際大学の招聘講演を行った際に、ベトナムにおける高齢者ケアについての講演があり、今後はベトナムにも急速に高齢化が進むことや実子が介護を担う確率が高いこと、介護の専門職がないことなど活発な議論が行われた。そのため高齢化の問題は先駆的な日本の対策への関心は高い。

精神看護学の領域は、日本においても昨今、急速に整備されてきている領域であるが、ベトナムにおいては医学はあるが看護は確立されておらず今後の発展が期待される。

連携教育はここ数年、アジアにも拡大され始めた段階で、本学連携総合ゼミに参加しているフィリピンの大学に比べるとまだ未知の段階である。まだ、保健医療福祉の専門職の種類も少なく、チーム医療といっても医師・看護師間やりハビリ系の職種間で開始される段階と考えられる。しかし関心は高く本学への見学を希望も多数聞かれた。

【結論】1. これから発展的な領域の講義で、関心は高く今後予想される高齢化や精神医療の需要に対応するためにも継続的に提供する必要がある講義と考えられた。
2. 連携教育は今後、保健医療福祉の専門職種の養成に際してアジア諸国でも発展の可能性が大きいと考えられる。

【謝辞】本研究は平成28年度新潟医療福祉大学研究奨励金の学長裁量費の助成を受けて実施した。

【文献】

- 1) 浅永恭子ら.ベトナムにおける看護教育の現状と看護師の役割—N看護大学での調査より. 金沢大学つるま保健学会誌. Vol.38(2), 39-43, 2014.